

自閉症像をひっくり返した功績

前例がなければ、自分たちが前例となって道を切り拓けばいい

ケアマネジャー 藤村忍

明石洋子さんと徹之さんのパワーに圧倒されました。拝読した著書『お仕事がんばります』は、マーカーと付箋だらけです。私にとって心に留めておきたい言葉がたくさん溢れていました。

「もし選択肢がなければ自分たちでつくろうと思ったのです」・・・これは徹之さんの中学卒業後の進路を考えたときの洋子さんの言葉。この言葉は、洋子さんの行動の源となる「哲学」のようものだな、と思います。その後も、地域作業所「あおぞらハウス」を運営するなかで壁にぶつかったときも、「本当に欲しいサービスは自らつくっていき、見本を示していき、それを制度にしてみたらどうか」と決心し直したと述べられています。洋子さんは徹之さんとともに、自閉症の人のノーマライゼーションを具体的に示してくれただけでなく、誰もが自分らしく地域で暮らしていくための地域づくりのモデルを実践して見せてくれたのだと思います。

自分たちが欲しいしくみがなければ、自分たちで作ればいい。前例がなければ、自分たちが前例となって道を切り拓けばいい、このパイオニア精神で、とてつもなく厚い壁を次々と壊し、新しい世界を創造してこられてきました。

世の中を変えるって、こういうことなのだなと感動するとともに、私自身は何ができるのだろう、とあらためて考えさせられました。

そして、もうひとつ私が好きな言葉はこの本のタイトルでもある「お仕事がんばります」という徹之さんの口癖です。この言葉をみると、NHKの「新日本探訪」に出てきた徹之さんが、楽しそうに、一生懸命働く姿を思い浮かべ、自然と微笑んでしまいます。

そして、徹之さんは一般的に持たれている自閉症像をひっくり返した功績は大きいと思います。高校入学と卒業、公務員試験突破などなど、これはやりたい、と一度決めたことは絶対やり遂げる意思の強さと努力には感服しました。これからも徹之さんが、自分の足でしっかりと素敵な人生を歩んでいかれるよう、応援しています。